

バフ (Buff) 色ってどんな色？

鳥の識別に色はとても重要である。どの鳥を解説する場合でも「色」を抜きにはできない。

さて、往々にして「バフ色」という色に遭遇する。この「バフ色」が、ピンクとか、ホワイトとか、ブルーのようにすんなりと日本語の色として頭に入ってくるだろうか？

バフは英語の“buff”、即ち buff leather (もとは水牛、のちには牛やシカなどの淡黄色の柔らかいなめし革) からきており、淡い黄色、または素肌の色 (種類によって違う?)。

厳密には 1788 年、アメリカの独立が承認された 5 年後で、この年に合衆国憲法が発効されたが、そのころの兵士の制服に用いられていた柔らかな軽い皮革の黄色みを帯びた茶色の通称が buff (バフ) だったことに由来する。

ということを入れたら鳥の解説の読み方もなにか身近になろうというもの。

一例としてコシャクシギの解説文で、「頭中央線状の部分と眉斑はバフ色。顔から頸はバフ色で」とある。「そうか、あそこはバフか。薄茶色のような、黄色味がかかった色か」と納得できる。

大宮のハクトウワシ